



⑧発信する ⑨追究する ⑩粘り強く ⑪つながる ⑫思いや願いを実現しようとする ⑬課題解決する

## 『窓を開けるのは誰?』

副校長 正木 俊行

長かった夏休みもついに終わりを迎えましたが、夏の暑さはまだまだ続きそうです。

学校には今でこそ普通教室にはエアコンが設置されていますが、ほんの数年前まではエアコンが設置されていない学校も多数ありました。冬はストーブで快適でしたが、夏は扇風機のみで、教室内は子ども達の熱気も相まって、本当に蒸し風呂のようでした。

子ども達に少しでも快適な環境を提供することを大切に考えている教職員は、子ども達が登校する前に教室や廊下の窓を開け、少しでも良い環境を整えようと努力していました。当時の私はというと、早朝特別クラブのバスケットボールクラブをずっと担当していたので、朝、教室や廊下の窓を開けてあげることができませんでした。本当は朝練が始まる前に教室へ行き、窓を開ければ済むことなのですが、毎日学校で全ての食事をとり、帰宅後には入浴と睡眠しかなかった当時の私にとっては、朝練の開始時刻ぎりぎりの出勤を変えることが、肉体的に不可能でした。

そんな私が担任していたクラスの子供達は、私が朝練を終えて教室に行くまで、ずっと蒸し暑い教室で登校後の時間を過ごしていました。そこへ、拭いても拭いても汗が噴き出してくる朝練直後の私が到着。まず、初めにすることは、自分の席の近くの窓だけを全開にすることです。といっても、学校の窓は転落防止のストッパーがついているので15cm位しか開かないのですが、それでもサウナのような教室の淀んだ空気にさわやかな風を送り込んでくれました。そして子ども達に向かって一言。「あ〜あ、涼しい。気持ちいい。」それを見ていた子ども達は、「先生だけずるい!」「こっちの窓も開けて!」と口々に文句を言い出します。それを聞いた私が更に意地悪な一言。「暑ければ、窓開ければ。」

クラスによっては、窓係や日直が窓を開ける約束になっているクラスもあるので、暑いからと言って個人個人が勝手に窓を開けるのは良くないと思っている児童もいたようでした。私は上述のような事情で窓を開けて教室環境を整えてあげることができなかったのも、子ども達自ら環境を整える力を身につけてほしいと感じていました。自分たちで窓を開けるようになった子ども達には、たったこれだけのことでもいろいろな発見があったようでした。①窓は反対側も開けると風がよく通ること。②少し涼しくなってきたときは、窓を開けたいと思う人と開けたくないと思う人がいること、③朝窓を開ける人はたくさんいるけど、帰りに窓を閉める人はあまりいないこと……。①は、なかなか素晴らしい発見だったので、すぐにみんなで共有していました。②は、涼しい時は周りの人と相談したり、衣服で調節したりして互いに思いやることで解決しようとしていました。③は、窓閉めを日直の仕事にすることで、閉め忘れがないように工夫していました。こうして私のクラスの子供達は、自分たちの環境をあまり整えてくれない担任のせいで、自分たちの力で少しだけ環境を整えようとする力、問題を解決する力が身についたようでした。何でもかんでも子ども達だけで判断していくことは、時に危険を招いてしまうこともあるので、慎重に判断していかなくてはいけないところもありますが、自分たちの課題に自ら気づき、自ら考えて解決に導く力は大切にしていきたいと感じていました。

初音が丘小学校でも、このように子ども達自ら、課題に気づき、解決していく力を育てることを大切にしています。本校で今年度重点を置いて研究を進めている生活科・総合的な学習でも、予め決まっていることを教師が与えるのではなく、子ども達からどうしたいのかを引き出し、それを実践していくためにはどんなことが必要なのかを考えて、実際に行動していけるように導いています。そんな初音が丘小学校へのご支援ご協力を今後とも、よろしくお願い致します。